

開放系討議空間「毛利嘉孝と考える 文化と運動」

開催のお知らせ

日時 2009年12月12日(土曜日)午後4時より

場所 大阪大学豊中キャンパス 待兼山会館2階、会議室

参加自由

『ストリートの思想』は希望の思想である。私たちを取り巻く状況はけっして明るいものではない。けれども、過剰に悲観的にならずに、いろいろなところに散らばっている可能性を拾い集めてつなぎ合わせることが、今一番必要とされている。ストリートはそうした可能性に溢れている場所なのだ

(毛利嘉孝『ストリートの思想～転換期としての1990年代』2009、NHK出版)。

そうなのだ。私たちの可能性は説教くさく論壇で啓蒙されるものでもなければ、専門家に教えられることでもなく、そこかしこに散らばり、また溢れる。そしてその散乱し溢れ続ける「文化は政治に従属しない。文化は手段ではなく、むしろ目的である」(同)。そのとき浮かびあがる運動とは、どのような力なのか。文化を研究することは、文化を目的として生成する運動の中にあって、何を担うのか。

毛利嘉孝さんの著書『ストリートの思想～転換期としての1990年代』を中心に読んで、複数の方が発言を準備します。

発言

栗山新也(サンシン奏者 芸能社会史研究者)

藤田智博(バックパッカー 社会学者)

にわとり(うたうたい ときどき笛吹き)

.....(その他続々結集中)

応答 毛利嘉孝

司会 富山一郎

ストリートの思想

転換期としての1990年代

毛利嘉孝

Mouri Yoshitaka



NHK

NHKBOOKS

1139

カルチュラル・スタディーズから
反貧困闘争まで

思想は今や大学からストリートへ飛び出した。90年代の「風の地殻変動」をひも解き、その背景を追う。

NHKブックス 時代の半歩先を読む

[主催]「横断するポピュラーカルチャー」研究プロジェクト(大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」) + 大阪大学文学研究科国際現代文化研究ハブ

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/crossing-popularculture/>

[問い合わせ] crossing-popularculture@let.osaka-u.ac.jp (担当 古川岳志) まで